

## 2010年（平成22年）3月期 第3四半期のご報告にあたって

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2010年3月期第3四半期の概要をこのウェブサイトを通じてご報告いたします。

当第3四半期連結累計期間（2009年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月）における当社グループの業績は、売上高は**5,887億円**、営業利益は**212億円**、四半期純利益は**90億円**となり、前年同期比では減収減益の決算となりました。しかしながら、四半期ごとに推移を見ますと、製品分野や市場によって状況は異なるものの、**2008年後半から顕在化した世界不況に伴う需要環境の悪化は、当第2四半期から第3四半期にかけて全般に緩やかに回復しはじめており、当社グループにおいてもオフィス用MFP（デジタル複合機）やTACフィルム（液晶偏光板用保護フィルム）などの主力製品が力強く牽引して、当社グループの業績は着実に回復基調にあります。**

当第3四半期連結会計期間（2009年10月1日から同年12月31日までの3カ月）の売上高は、前年同期比**182億円減収の1,953億円**となりました。直前四半期（7月から9月の3カ月）においては**739億円**の減収であったことと比較しますと、減収幅は大きく縮まりました。当四半期の営業利益は、前年同期比**26億円減益の120億円**となりました。減益幅も直前四半期の**144億円減益**から縮まり、直前四半期比では**22億円**の増益となりました。

情報機器事業では、新製品を投入したオフィス用カラーMFPを中心に販売数量は増加基調を維持しました。オプト事業では、TACフィルムやガラス製ハードディスク基板に対する需要回復もあり、販売は堅調に推移しました。これら事業面での改善に加え、昨年後半から取り組んできた構造改革や費用削減などの経営施策が、この収益回復に着実につながっております。この収益回復に、運転資本の効率化も相まって、フリー・キャッシュ・フローも当初の予想を大きく上回る水準を創出しております。

当社は、昨年4月に経営方針<09-10>を策定し、その重要課題のひとつとして、需要が縮小した事業環境下では固定費削減によって損益分岐点を引き下げ、減収減益の状況にあってもフリー・キャッシュ・フローを確実に確保するところの「企業体質改革の実行」を進めてきました。先行きの経済情勢につきましては未だ不透明感は残りますが、これまでの取り組みによって回復基調に戻った収益モメンタムを基盤にして2009年度の仕上げに全力であたり、**2010年度は売上拡大による利益の増大を目指す経営、即ち「成長軌道への転換」へと確実につなげてまいり所存であります。**

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年2月

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長  
松崎 正年

## ハイライト

(単位：億円、未満切捨)

	第1四半期 (2009年4月1日～ 同年6月30日)	第2四半期 (2009年7月1日～ 同年9月30日)	第3四半期 (2009年10月1日～ 同年12月31日)	第3四半期(累計) (2009年4月1日～ 同年12月31日)
売上高	1,894	2,039	1,953	5,887
営業利益 (△は損失)	△5	97	120	212
経常利益	6	81	104	191
四半期純利益	2	32	54	90



(単位：億円、未満切捨)

	2010年3月期 第3四半期末	2009年3月期末	増減
総資産	8,661	9,180	△519
負債	4,530	5,037	△507
純資産	4,131	4,142	△11
自己資本比率(%)	47.6	45.0	2.6
有利子負債	2,049	2,304	△254

自己資本比率の推移



有利子負債残高の推移



(単位：億円、未満切捨)

	2010年3月期 第3四半期 (累計)	2009年3月期 第3四半期 (累計)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	885	825	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	△307	△761	454
フリー・キャッシュ・フロー	577	64	513
財務活動によるキャッシュ・フロー	△371	△182	△188

## 業績の概況（2009年10月1日～同年12月31日の3カ月）

### グループの収益力は確実に回復基調

売上高

**1,953** 億円 (前年同期比  $\Delta$ 8.6%)

直前四半期比 **85** 億円 (4.2%) の減収

製品分野或いは市場によって回復の強弱はありますが、オフィス用MFP（デジタル複合機）やTACフィルム（液晶偏光板保護フィルム）など主力製品が牽引して、グループ収益力は回復基調を維持しました。

営業利益

**120** 億円  
(前年同期比  $\Delta$ 18.1%)

直前四半期比 **22** 億円 (23.5%) の増益

経常利益

**104** 億円  
(前年同期比 +67.6%)

直前四半期比 **22** 億円 (28.1%) の増益

四半期純利益

**54** 億円  
(前年同期比 +74億円)

直前四半期比 **22** 億円 (69.2%) の増益

営業利益は、固定費削減による損益分岐点の引き下げや経費削減の徹底、採算性の高いカラーMFP新製品の拡販や需給環境が大きく改善したオプト事業の増益が寄与しました。

経常利益は、営業外項目で為替差損が減少したことなどが改善要因となり、前年同期に比べ大きく改善しました。

四半期純利益は、前年同期の19億円の損失から黒字転換し、54億円となりました。

このように、当四半期は、経常利益から四半期純利益まで全ての段階利益において前年同期比で増益となりました。

また、直前四半期（2009年7月1日～同年9月30日）との比較を見ると、利益面では全ての段階利益において増益となりました。

セグメント別業績（2009年10月1日～同年12月31日の3カ月）

情報機器事業

直前四半期比で売上は微増ながらも、営業利益は大幅増益  
穏やかながらも販売モメンタムは回復傾向

- オフィス用カラー機新製品を中心とした販売ミックスによるMFP本体の採算性の改善
- これまで築いてきたMFPの市場設置機から創出されるサービス収入も安定的に推移
- 構造改革や経費削減などの損益分岐点の引き下げ取り組みに効果

売上高

1,339 億円

(前年同期比  $\Delta$ 6.0%)

(直前四半期比 +0.9%)

営業利益

101 億円

(前年同期比  $\Delta$ 33.8%)

(直前四半期比 +33.3%)

オフィス用MFP

「bizhub（ビズハブ）C452/360/280/220」の中高速カラー機の新製品4機種を中心に販売拡大に努めました。いずれも、従来製品に比べて大幅な省電力設計と長寿命部品の採用などによって、お客様の「TCO（トータル・コスト・オブ・オーナーシップ）削減」に貢献するとともに、当社独自の重合法トナーによる高画質、最新のネットワーク機能やセキュリティ機能、トップレベルの静音設計など、お客様にとっての「生産性の向上」や「環境負荷の低減」にも貢献する設計思想のもとで開発したものです。オフィス用カラー機の販売数量は、新製品効果もあって前年同期との減少幅は縮小してきました。また直前四半期比では、欧米市場での販売増が牽引して回復基調を維持しました。オフィス用モノクロ機の販売数量は、北米やアジア市場での販売増が牽引し、ほぼ前年並みの水準まで回復しました。また、直前四半期比でも、販売ボリュームを維持しました。

プロダクションプリント分野

カラー機への需要は長引く景気停滞の影響を受けて低迷し、販売は低調でしたが、「bizhub PRO（ビズハブプロ）1051/1200」の新製品2機種を発売して品揃えを強化したモノクロ機は、欧米市場を中心として堅調に推移しました。全体の販売数量は前年同期を下回りましたが、直前四半期からは増加基調を維持しました。

プリンター分野

オフィス向けにA4タンデムプリンターやA4カラー複合機などの販売拡大に取り組んだ結果、販売数量は、欧米を中心に海外市場でのカラー機が大幅に伸長するとともに、モノクロ機も前年同期並みの水準を確保するなど堅調に推移しました。

オプト事業

好調なTACフィルムが牽引し、直前四半期並みの利益水準を確保  
営業利益は前年同期比で大幅増益

- 当社の強みであるTACフィルム、光ピックアップレンズ、ガラス製ハードディスク基板はいずれも販売数量が前年同期から伸長
- 画像入出力コンポーネント分野は需要の伸び悩みなどにより販売数量は減少
- 直前四半期比では、売上高は、画像入出力コンポーネント分野の売上減少などにより減収、営業利益は、BD（ブルーレイディスク）用光ピックアップレンズの販売数量減少などにより若干減益ながらも力強さを維持



ディスプレイ部材分野	VA-TACフィルム（視野角拡大フィルム）及び膜厚40 $\mu$ の薄膜フィルムなど高機能品の販売拡大に努めました。大型液晶テレビの需要拡大などに対応した液晶パネルメーカー各社の増産を受け、販売数量は前年同期を上回り、2009年4月以降、堅調に推移しています。
メモリー分野	光ピックアップレンズ： BD用光ピックアップレンズのゲーム機やAV機器などでの需要は回復基調であるものの、パソコン向けの需要拡大が依然として弱い状況にある中、DVD用光ピックアップレンズなどの販売拡大に努めた結果、全体の販売数量は、前年同期を上回りました。  ガラス製ハードディスク基板： モバイルパソコンや外付けメモリー向けを中心に需要が回復する中、高密度化に対応し、販売数量を着実に伸ばしています。
画像入出力コンポーネント分野	デジタルカメラ・ビデオカメラ向けの販売数量は前年並みとなりましたが、カメラ付携帯電話向けは当社が得意とするハイエンド領域での需要伸び悩みもあり、減少しました。

## メディカル&グラフィック事業

フィルム製品の需要減少に加え、景気低迷によるデジタル機器の需要冷え込みで、販売は低調に推移

- コスト削減を徹底するも、印刷分野での利益減少を医療・ヘルスケア分野で補えず



医療・ヘルスケア分野	デジタルX線画像診断領域でCR機器の新製品「REGIUS（レジウス）210」のほか、幅広い品揃えで国内外の医療施設に向けて販売拡大に取り組み、販売台数は前年同期並みの水準を確保しました。特に診療所市場向けに販売を注力している小型CR機器「REGIUS 110」は、中国や欧州を中心に拡販し、前年同期を上回る実績をあげました。 ネットワーク機器では、新製品「I-PACS EX ceed（アイパックス エクシード）」の販売強化に取り組みました。また、カラー超音波診断装置の新製品「SONIMAGE（ソニマージュ）513」の発売を開始し、超音波診断領域へと業容拡大を図りました。更に、製品保守サービスと経営支援サービスにネットワークサービスを組み合わせ、「infirmity（インフォミティ）」を、診療所市場向けに本格展開しま
------------	--

	した。
印刷分野	デジタル印刷機器の販売拡大に取り組みました。景気拡大が続く中国市場での販売台数は前年同期を上回りましたが、景気低迷が長引く先進国市場での設備投資の冷え込みは依然として厳しく、これらデジタル機器の販売は低調に推移しました。

計測機器事業

米国や中国市場での販売が伸長し、営業損益は赤字幅が縮小



分光測色計「CM-5」、色彩色差計「CR-5」、葉緑素計「SPAD-502plus」など主力の色計測分野において意欲的な新製品の発売を開始し、自動車や家電製品等の製造業だけでなく食品、化粧品、農業など幅広い分野で販売拡大に努めました。米国や中国市場での販売が伸長し、営業損益も赤字幅が縮小しました。直前四半期比でも改善しています。

## 財政状態



手元資金を増やす一方、売上債権の減少、およびたな卸資産の削減に努めた結果、流動資産が減少しました。固定資産については、設備投資の抑制、および無形固定資産の償却が進んだことにより減少しました。



負債は、転換社債の満期償還を行ったこともあり、有利子負債(長短借入金と社債の合計額)が、254億円減少の2,049億円となりました。また、生産の絞り込みや経費削減などにより、仕入債務等が減少しました。

純資産は、USドルに対する円高による為替換算調整勘定の変動などもあり、減少しました。

自己資本比率は総資産が減少したことにより、前期末より2.6ポイント上昇し、47.6%となりました。

キャッシュ・フローの状況 (2009年4月1日～同年12月31日の9ヶ月)



### I. 営業活動によるキャッシュ・フロー

**885** 億円 (前年同期比 **+59** 億円)

税金等調整前四半期純利益、減価償却費および運転資本の好転などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは885億円のプラスとなりました。

### II. 投資活動によるキャッシュ・フロー

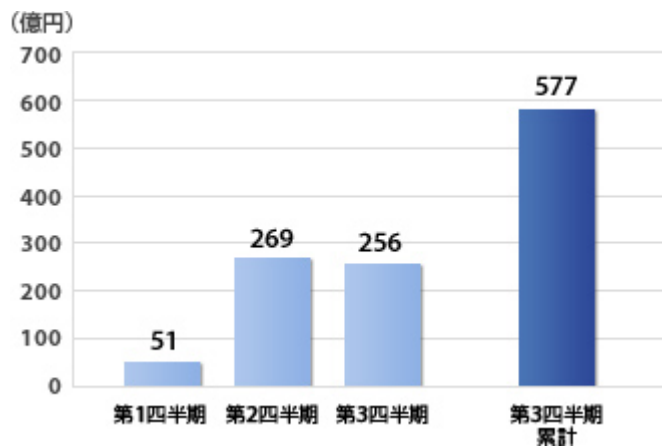
**△307** 億円 (前年同期比 **+454** 億円)

情報機器事業における新製品ののための金型投資および戦略事業であるオプト事業における生産能力増強などへの投資を中心に、投資活動によるキャッシュ・フローは307億円のマイナスとなりました。



### I + II. フリー・キャッシュ・フロー

**577** 億円 (前年同期比 **+513** 億円)



上記の結果、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計）は577億円のプラス（前年同期比+513億円）となり、当初の計画を大きく上回っています。

### III. 財務活動によるキャッシュ・フロー

**△371** 億円 (前年同期比 **△188** 億円)

主として転換社債の償還、配当金の支払いなどにより、財務活動によるキャッシュ・フローは371億円のマイナスとなりました。

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## トピックス

### 経営関係

---



有機EL照明の市場投入に向けてパイロットラインを建設

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [有機EL照明情報](#)

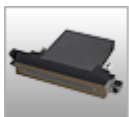
### 事業関係

---



東京スカイツリー®計画の施設内に直営の多機能型ドームシアター開設を決定

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [プラネタリウム事業情報](#)



消費電力を約5割低減した産業用インクジェットヘッド『KM1024』シリーズ新発売

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [製品紹介](#)



初のカラーユニバーサルデザイン認証を取得した分光測色計「CM-5」新発売

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [製品紹介](#)

### CSR関係

---



東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2009」に出展

- ▶ [関連情報](#)



「コニカミノルタ エコ俳句大賞2009」入賞作品が決定

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [入賞作品](#)

### その他

---



コニカミノルタテクノロジーレポート2010年版 (Vol.7) 公開

- ▶ [レポート掲載ページ](#)